

令和7年度

瀬田小学校学校評価書

評定（達成度）の目安

達成度	指標	4段階評価における割合
A	目標を上回る達成	「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」の肯定的評価の割合が90%以上
B	目標を達成または概ね達成	「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」の肯定的評価の割合が80%以上90%未満
C	目標を達成せず	「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」の肯定的評価の割合が50%以上80%未満
D	目標を大きく達成せず	「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」の肯定的評価の割合が50%以下

項目		評価の観点	教職員		学校関係者	項目に関する分析・意見・提言 など (○教職員 ◇学校関係者)	今後の改善に向けて (●教職員 ◆学校関係者)
			小項目 評定	上段：大項目評定 中断：肯定的評価 下段：昨年度評価			
確かな学力と個性を伸ばす教育の推進1	主体的・対話的で深い学び	1 互いに認め合う支持的風土を育てる学級・学年集団作りに努めた。	A	A 98.1 (A 97.8)	A	○「主体的・対話的で深い学び」を意識して研究授業に向けて学年部や、研究推進部での研究を深めた。また、研究授業を受けて次の研究授業学年の研究に生かしたり、授業改善のヒントにする取り組みができた。 ○実行委員制を取り入れている学年も多く、今後も全員に活躍の場を与える機会を大切にしていきたい。 ○夏休みに特活部からSPDCAサイクルに関する学級会について研修会を行った。また、実践を通信や公開授業などで発信した。 ○学級・学年において、実行委員制や係活動、学級会等を通して、児童一人一人に役割や活躍の場を意識的に設定する取組が広がった。その結果、自分の考えを伝えたり、友達の意見を受け止めたりする姿が見られるようになり、互いを認め合う支持的な学級風土の形成につながった。 ○協同的な学習や話し合い活動を取り入れた授業づくりを意識する教員が増え、ICTを活用して考えを可視化したり、意見を共有したりする場面が多く見られるようになった。 ○学級会や授業の実践を通信や公開授業を通して発信することで、校内で実践を共有し、互いに学び合う風土づくりにつながった	●教師の押し付けではなく、児童が楽しんで授業に向かう姿が見られて初めて主体的に学んでいるといえる。まずはどの子も前のめりに学びたくなるにはどのような教材をどのような支援を想定して準備するかを考えなおし、今後の授業研究に生かしていきたい。 ●学級・学年により差があるので、共通実践を行えるようにしていきたい。（よいところみつけをする、学級会年間で○回するなど） ●特活部からは今年度の全学級の学級会実施回数（4月に提案していた低学年6回以上、中高学年8回以上）を把握し、次年度につなげていきたい。 ●学級活動や授業における児童の変容を、教員の実感だけでなく、記録や振り返りを通して捉え、学校評価により具体的に反映できるよう工夫していくことが求められる。
		2 協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善（ICT活用含む）に努めた。	A			◇どの報告書を見ても、「見える」「感じる」素晴らしい活動をされていると思います。年度が替わっても、改善点や作られたと思われるテキストを用い、より一層の素晴らしい授業になるように頑張ってください。そして、各先生方と話し合える、考え合う場所を作ってください。 ◇子どもたちの様子を見せていただき、互いに認め合い、高め合う学校・集団づくりができていたと感じた。 ◇コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫、学び合いを取り入れた授業づくり、主体的・対話的で深い学び、研修会もしっかり取り組んでいる。 ◇学校の雰囲気は落ち着いていて、子ども同士が声を掛け合っている様子を見かける。学びの場づくりは進んでいる印象だが、全員に行き届いているかは気になる。 ◇発表や話し合いをしている場面が増え、子どもたちが自分の考えを言うよう工夫されていると感じる。反面、学年や先生によって取組の差があるのかもしれない。 ◇実行委員制を取り入れてくださっていることにより、学びの場や経験、発進する、責任感、人との関わりなど育ったことはいろいろあったと思います。素晴らしいと思います。 ◇一分間で自分の思いを発表するということも話を聞いて素晴らしいことだと思い、子どもだけでなく、私たち大人にとっても良いことだと思えました。 ◇認め合う言葉が日常にある→具体的にこういう所が良かったね等の言葉が自然に出てくると良くなると思う。 ◇安心して話せる関係性→ペア、班などでの対話が積極的に各自できれば向上すると思う。 ◇違いを価値に変える方法→各自の得意不得意が活かせる協働作業ができれば良いと思う。	◆実現するには難しいと思いますが、先生と児童（10名程度）が他の教室に移動し、これまで自分のクラスでやってきたことを主となって活動する。 ◆先生方が話し合える（考え合える）場所を作る。例えば、①考えをまとめたテキストを作る②方針作りと教材などのツールを作る③リーダーを育成する…等々をする場所として。 ◆より子どもたちがしっかりと主体性をもって取り組むことができるように先生方も取り組んでほしい。 ◆子ども同士が認め合える雰囲気づくりを、これからも続けてほしい。外から見ても分かるように、学校の取組や子どもの成長を発信してもらえると安心できる。 ◆話し合い活動や振り返りなど、学び方を工夫している点は良いと思う。家庭や地域からも協力しやすいように、学習のねらいや様子を分かりやすく伝えてほしい。 ◆子どもたちの思いや意見を発表する場を地域でも、もっと活用できることは活用してほしいと思うので、相談してください。 ◆経緯を踏まえ、現状に至っていることを引き継ぐことが重要だと思います。次年度へのつなぎに期待します。
		3 「めあて」「振り返り」や学び合いを取り入れた授業づくりを行うなど、主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会に取り組んだ。	A				

確かな学力と個性を伸ばす教育の推進2	道徳教育の充実	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的实践力を育てる活動を工夫した。	A	95.5	A	○「わたしと人権」の作品に全校で取り組むなど、人権尊重に関する学習をする時間が最低限確保されているように思う。 ○児童会で人権週間の取り組みをするなど、子ども主体で行動する機会がつくられたのは良かった。 ○週に1回、道徳の交換授業を行うことで、教材研究を深めたり、他クラスの児童理解に努めたりした。 ○道徳の時間を公開し、保護者の方にどのようなことを大事にして教育しているかを理解していただいた。 ○児童が自分の価値観を見つめ、他者の意見を尊重しながら考えを深める「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を目指している。発問の工夫や資料の精選、ペア・グループでの対話場面の設定により、児童の意見表出が増え、価値の葛藤を実感しながら道徳的判断力を培う授業が多く、学級で実践できた。 ○道徳教育を学校教育全体の基盤と位置づけ、生活科・社会科の学習、学校行事、学級活動、委員会活動、朝の放送など関連付けながら取り組んでいる。そのため、児童が「相手の立場に立つこと」「自分の気持ちを伝え合うこと」の重要性を日常生活の中で実感できるようにしている。 ○家庭に道徳教育の理解を深めてもらう機械として「道徳参観日」を設けている。授業を公開することで、保護者が道徳科の授業の進め方や子どもたちの意見交流の様子、価値観を育む過程を直接見ることができ、学校と家庭の教育観の共有が進んでいる。 ○視覚的支援をするため、道徳の教科書教材の挿絵をラミネートしたものを毎時間掲示しながら学習した。 ○友だちを大切にするために、呼び捨てでよばない、返事をしっかりするなどの声かけを日常的に指導する。	●人権作品への取り組みが標語ばかりに寄っている（とりあえず標語を作ればいい）感があり、もっと取り組みを深化させる必要があるように思う。 ●生命尊重やいじめを許さない態度に育成については、教師が主導になることばかりだったので、子どもたちが主体的に活動できるような取り組みを仕掛けていくことが今後必要である。 ●児童が安心して意見を交流できる場づくりには成果が見られるが、学級によっては発言が偏ったり、思考の深まりが十分に生まれなかったりすることがある。話し合いのスキルステップ化、意見の比較・整理のスキルなど、対話を支える指導技術の向上が求められる。そのため、教材研究の共有や授業参観後の協議を充実させ、児童の意見を引き出し価値葛藤を実感させる発問づくりを校内でさらに統一していく必要がある。 ●道徳科の評価を、児童一人ひとりの成長や変容を的確に捉えられるように評価ノートのあり方を考えていきたい。 ●若草学級として、交流の授業で道徳科の学習をしている子どもたちもいるが、そうでない子どもたちもいる。若草学級で道徳科の授業を行うに当たって、資料や指導案などが不十分なので、それを整えて行きたいと思う。
		5	道徳の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流に努めた。	A			◇一貫した人権活動と道徳教育が見えるし、感じられます。より一層の活動を期待します。 ◇道徳の授業を大切にされていることに高評価できる。 ◇いじめを許さない、しっかりした心や態度を持てるよう学校全体で取り組んでおられることに高評価できる。私たち地域や保護者とも一緒に人権教育に取り組んでいるところに高評価できる。 ◇学校全体で人権や命の大切さを考える取組が続いているようで、外から見ても安心感がある。子ども主体の活動も見られ、よい学びにつながっている印象。 ◇道徳の授業を大切にされていることが伝わり、いじめを許さない姿勢も感じられる。授業公開などで保護者にも分かりやすく示している点は評価できる。 ◇「道徳参観日」はすごく良いと思います。従来の授業を参観するだけでなく、親も子と一緒に考え学ぶことがよかった。 ◇呼び捨てで呼ばないことは、保育園の時から下の名前で○○と家族のように親しみを込めて呼び合う姿が続いているように見受けられますが、親しみが込められていたら、それでもよいのかと思います。 ◇見て見ぬ振りをせず、行動で示す→立場を変えて考え、実際に様々な立場になって考えてみたら良いと思う。	◆人権関連は、幅広く活動するのではなく、いくつかの課題に対して検討し、まとめ、意見交換会を開くなどの活動が必要と思われます。 ◆これからも命の大切さ、自分も人も大切であるということを、しっかり考えていき、保護者・地域とともに学びの場を持って行けるようにしたいものです。 ◆これからも命や人を大切にすることを育てる取組を継続し、学校・家庭・地域と一緒に学べる機会が増えるとうい。地域としても協力しやすくなると思う。 ◆取組の内容が地域にも伝わるよう、授業公開や発信を続けてほしい。子どもたちが自分の考えを持ち、相手を尊重できる姿を増えることを期待している。 ◆子ども側からは「こんな言葉遣いはあかん」「暴力的な言葉や威圧的な言葉は使ったあかん」など知っているけど使ってしまうこともあると思うが、人の心を傷つける言葉は使わないようにするにはどうしたらよいか、又、家族の中でそういう場面があったとき指摘できるように近づいてほしい。 ◆標語など頭では理解していると思うが、心で善悪を感じる教育に期待します。
		6	道徳の時間を公開するなど、保護者や地域との連携も視野に入れて道徳教育に取り組んだ。	A				

確かな学力と個性を伸ばす教育の推進3	体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善に努めた。	A	A 98.7 (A 93.5)	A	○運動会では、練習期間と演技時間を昨年より短縮したが、教師自身は例年の演技内容の形にこだわってしまった。よって、内容は例年通りの内容であるのに対し、練習期間だけが短くなってしまい指導時間が間に合わない学年が見受けられた。児童の姿としては、積極的に運動会に取り組んでいる児童が多く見られたが、一方で運動が苦手な児童にとって負担があることを念頭に置いておかななくてはならない。 ○授業づくりにおいて、学年やクラスの中で体育の指導技術に差があり、児童が十分に授業時間、体を動かすことができているのか疑問点が残る。 ○休み時間には、体育委員会の企画により体を動かす機会を作ることができていたことがいい点である。 ○熱中症対策で運動会の実施時期を変更した。練習期間や時数も無理なく設定された。 ○給食を題材とした新しい教材を開発し、児童が楽しく食について学べるよう、工夫した。 ○保健指導を、2学期初めの身体測定の前に時間を頂き、約15分の保健指導を実施した。低学年には「怪我の処置を自分でできるようになろう」、高学年には「怪我の予防をしよう」というテーマで行った。来室する子どもたちに、鼻血を出したら鼻をつまんで下をむくことや、擦り傷は洗ってから絆創膏を貼るなど、指導内容が行動に現れていて、行動変容を促すことができたと考える。	●運動会の運営方法や練習の在り方については検討が必要である。 ●体育を苦手としている先生等については、学年の中で、体育の授業について単元の目標や共通理解しておかななくてはならないことなどを話し合う機会があると良いと思う。また、体育を得意としている先生に積極的に指導方法などを聞くことができると良い。 ●体育委員会による企画は今後もやっていきたい。 ●体育委員会が実施していたケイドロ大会など、大人数で運動場で走り回るイベントの際、衝突の怪我の来室が多かった。割り当てを決めて人数を減らしたり、走る場所を決めたり、対策が必要だと思いました。 ●運動をする子どもたちと、しない子どもたちの二極化がすすんでいる。しない子どもたちを巻き込んで、外遊びをしに行くなどして、様々な方法を提案していきたいと思う。
		8	運動会などの行事の取り組みを通して、目標を持って体力づくりを推進する運動実践に努めた。	A			◇練習期間、競技時間の短縮は、熱中症問題のためだと思いますが、気温が低い時間（朝）にするなどの時間割の変更を全体的に考えてみてはいかがでしょうか。運動会とは、美しく見せるだけではなく、楽しく体を動かし鍛える、協力し合って一つのことを完成させることも目的ではないでしょうか。 ◇体育委員会の活動は素晴らしい。児童の自主性を大切に進めてほしい。 ◇今年度も運動会を見学させていただき、本当に学年ごとに協力し、成長されていると実感しました。先生方の指導は大変だったと思います。 ◇どの子どもたちも生き生きとし、頑張っていたことが印象的でした。たくましい心と体を育てることは、日々の運動への意識だと思っています。体力作りは毎日の生活からです。 ◇運動会を見て、子どもたちが学年ごとに協力して一生懸命取り組む姿が印象的だった。練習時間の工夫もあり、無理のない形で行事を進めているように感じた。 ◇休み時間の体育委員会の企画など、子どもが主体となって体を動かす機会がつくられているのは良い。外から見ても、運動を楽しむ雰囲気がある学校だと思う。 ◇休み時間には、子どもたちはもちろん、先生も一緒に校庭で楽しく走って遊ぶ姿が見られて嬉しいです。また、運動場だけでなく、それぞれの力量や興味に合った場所を見つけて楽しく遊んでいる姿も見られて嬉しいです。 ◇運動会では、一日で全学年が実施できたことにより、見てもらうという意識が強く持っていたように思われ、縦割り授業の良さも見られました（応援合戦など）。各学年の良さや頑張りを見せていただき良かったです。 ◇運動会では皆が楽しんでいた。とても良かった。ただし、年配の方にも配慮し、きちんと見学エリアを設けた方がいい。保護者も学年別に交代制で観戦した方がよいと思う。	◆体育委員会と同様に運動会実行委員会を立ち上げてはいかがでしょうか。競技内容、団体競技内容などを児童に任せ、先生方は指導者としてはどうでしょうか。 ◆保健指導は、長い人生において役に立つことが多いと思います。もっと活発な学習会に進めてください。 ◆運動能力の差は、学年が上がるにつれ大きくなると思います。苦手意識が少しでも薄れ、楽しく外遊びができる指導をお願いします。 ◆体を動かす楽しさが続くように、行事だけでなく日常の運動習慣づくりも進めてほしい。運動が得意でない子も参加しやすい工夫があると、さらに安心できる。 ◆暑さ対策など安全面に配慮して運営されている点はありがたい。今後も時間帯の工夫なども含め、子どもが元気に活動できる環境づくりを期待している。 ◆各学年のリレーや演技には、次の学年への準備があり、次へのつながりがあり、6年生の演技につながっている感が良く感じられました。が、中学年がもう少し演技を頑張ってもらいたいです。 ◆外遊びが苦手な子でも、部屋で読書をしている子がいたり、友だちと部屋で遊んでいて、その流れで外へ遊びに行ったりという姿があってもよいのでは。
		9	体を動かす気持ちよさを体験させるとともに、学習カードを工夫するなどして進んで体を動かそうとする意欲の育成に努めた。	A				

確かな学力と個性を伸ばす教育の推進 4	指導改善（組織的・計画的）	10	指導体制・指導方法の工夫改善に努め、学力向上を目指した。	A	A 96.2 (A 90.1)	A	○月に一度の推進委員会で各学年の取り組み状況を確認し、7月には全教員を対象にアンケートを実施。2学期に向けてのさらなる取り組みについても考えた。2学期は毎週の打ち合わせで5分ほど利用し、各学年で共通実践事項の取り組みを話し合う時間をとっている。普段話し合う時間が取れないことも多いため効果を実感する声も聞かれる。 ○タブレットやICT機器を活用した情報・教材の共有、授業の効率化などが進んできたように思う。 ○打ち合わせ時などに学年での共通実践事項の振り返りなどを行うことで、教員間の意識向上につなげることができている。 ○OJT研修として職員間で授業を参観し合えるよう、授業の公開を依頼・計画した。 ○外部講師を招聘し、研究授業後の研究会にて職員が学べる機会を設けた。 ○ICT機器の環境整備やmetamoji研修などの情報機器の活用研修を行い、管理体制の確立や機器トラブルがあった際にも、迅速に解決でき、教職員の働き方改革につながるよう取り組んだ。	●2学期末にもアンケートを実施。3学期には、各学年の共通実践事項の総括を行う。総括の内容は来年度に引き継いでいく。 ●ICT機器の活用については依然として個人差が大きいと感じる部分もあり、継続的なミニ研修などによる、活用スキルのベースアップが必要だと考えられる。 ●全ての職員を対象に研修が行えるように機会を計画し、実践する。 ●研修については、一部の教員に偏ることなく、全職員が参加・参画できる形を工夫する必要がある。OJTや校内研修を通して、経験年数や担当にかかわらず互いに学び合う文化を一層育てていきたい。そのためにも、計画的な準備と役割分担を行い、教員の負担感に配慮しながら、働き方改革と教育活動の質の向上を両立させる取組を継続していくことが重要である。
		11	学校全体として指導力・教育力の向上を目指し、職員研修に努めた。	A			◇「月に一度の～」という報告は素晴らしい活動だと思います。これまでこのような報告はなかったかもしれません。より一層の活動を築き上げてください。 ◇OJT研修は、見えるようになってきましたね。結果は子どもたちに採点してもらったらどうでしょうか。 ◇研修活動にも努力されていることがうかがえます。 ◇外から見ても、先生方が授業づくりや研修に力を入れていることが伝わり、子どもたちの学びの土台が整ってきている印象がある。学校全体で取り組む姿勢は安心につながる。 ◇ICTの活用や情報共有が進み、授業準備や連絡が効率化されているように感じる。忙しい中でも工夫して教育の質を保とうとしている点は、地域としても評価したい。 ◇忙しい中でも、子どもたちのために少しでも時間を取って、よりよくする話し合いをしたり、研修に取り組んだりしてくださってありがとうございます。 ◇職員数が多いので、仕事量を分担し、教育効果が薄く、準備負担が多きいものは縮小、廃止するべき。個人任せを避けて、複数体制をとるとよい。	
		12	働き方改革や教育活動の質の改善に向け、計画的な準備・役割分担・ICT活用などの取組に努めた。	A			◆応援します。素晴らしいと思います。子どもたちのために頑張ってください。 ◆忙しい中、たくさんの事項をされていることがうかがえます。努力され、時間を有効にでき、働き方改革、改善につながってほしいです。 ◆先生方の研修や取組が、子どもたちの学力や学び方にどう生かされているか、地域にも分かる形で示してもらえると理解が深まる。取組の「見える化」に期待したい。 ◆働き方改革を進めながら教育活動の質を高めるのは大変だと思う。無理のない体制づくりを続け、先生方が元気に子どもと向き合える学校であってほしい。	

育ちと学びを支える連携1	家庭・地域との連携	13	保護者との個別相談や必要に応じて関係機関との連携を図り、子育てに対する積極的な支援に努めた。	A	92.9	A	○登校しにくい児童について担当者間や保護者との連携を密にし、面談をもつなど児童の学校生活や行事への参加等、個に応じた支援を行った。 ○寺子屋、ボラ配、文化祭等、学校教育活動以外においても地域とのつながりが強い。 ○個別相談を積極的に行った。児童によっては定期的に懇談を行うことで、家庭での様子や家庭での困りごと、あるいは本人の困りごとがはっきりし、解決に向かって保護者と協力して支援することができた。定期的な懇談の労は大きい、とても効果があった。 ○必要に応じて、またその困りごとの種類によって、SC、SSW、教育支援センター（巡回相談）、こども発達相談センター、子ども子育て安心課につないだり、過去に在籍した保幼こども園に問い合わせたりして情報を得たり、アドバイスをいただいたりして、解決策を練った。また、一旦関係機関などにつないだ児童については一定期間を多いた時点で、その変容をこちらからお伝えすることに尽力した。支援で効果のあったこと、なかったことをお伝えすることでカルテに残していただくことができた。今後のアドバイスがよりの確なものになると考えている。 ○個別相談や面談に同席し、日常的な支援につなげられるようにした。 ○6年生によるボランティア配食への参加を通して、児童と地域がつながる機会を設定した。 ○地域との関わりを意識し、各学年で地域人材の活用を努めた。参観や懇談会は定期的に行い、保護者や地域と連携をしている。修学旅行など泊まりの行事では、HPにリアルタイムに情報を発信し、学校の様子がより伝わるように努めた。また、2年生を対象に、防犯教室を実施した。子ども安全リーダーの方々に来校いただき、防犯教室の様子を見ていただいたことで、より身近に安全リーダーの方々をより身近に感じられた。安心・安全に関する情報発信はできていない。 ○家庭に課題のある児童への支援を関係機関と連携して進めるとともに、学年内外で情報共有を図り、組織的に事案へ対応する体制を整えた。 ○学校HPやメール配信システム、テトル・Teams等のICTを活用することで、学校全体の情報発信が充実し、連絡や連携がより円滑に行えるようになった。	●地域とのつながりが強いこと、地域の中にいる子どもたちの顔が見られることは職員にとっても大変良いことだが、休日動員がかかる職員に偏りが生じないような工夫が必要。 ●教育相談を行った児童を中心に、ファイルに整理するより良い方法を探る。 ●今後も学校の情報を定期的にHP等で発信し、地域や家庭が安心して連携できるようにしていく。引き渡し訓練や、防犯教室などの様子も今後、HPなどで発信し、より安心・安全な学校を目指して行く。 ●今年度、参観を3回実施することができた。また、運動会は、全校で1日開催し、団体演技・団体競技（リレー）・応援合戦を行い、多くの保護者が参観することができた。学校評価アンケートやCS等でいただいたご意見をもとに職員で協議を重ね、来年度もさらによりよい形となるようにしていきたい。 ●HPでは、学年のページのようなものを作成し発信していきたい。 ●ハザードマップの作成を学習過程に取り入れるなど、子どもたちが防災に目を向けられるような環境をつくっていきたい。
		14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会の実施や地域の施設・地域人材の活用を努めた。	A			◇地域と一緒にあって、家庭・学校と活動がなされ、身近に感じる人が多い。学校の行事に参加し、また地域に参加して下さることは、交流・絆を深めるためにはありがたいと思います。 ◇地域行事やボランティアなどを通して、子どもと地域がつながる機会が多く、学校が開かれている印象がある。保護者や地域が関わりやすい雰囲気づくりが進んでいる。 ◇困りごとのある子への支援を丁寧に進め、必要に応じて関係機関とも連携しているようで安心できる。連絡手段も整い、学校の情報が以前より伝わりやすくなった。 ◇登校しにくい子や個々に関わりの必要な子たちに個々に細やかに関わってくださっている事が分かった。 ◇地域にも積極的に交流を持っていただきありがとうございます。先生方も忙しい中や休日にも関わらず、神社の盆踊りや秋祭り、ボランティア等々、たくさん参加いただきありがとうございます。 ◇校長室よりの発信を細かく見られていなかったことを反省しています。先生方が忙しい中、子どもたちのためにいろいろ考え、児童たちからの思いを引き出して実行できるようにと、いろいろな面からのサポートをありがとうございます。 ◇先生方にはお手数をかけているが、お弁当を受け取られる方々は、子どもの同行に嬉しく感じておられるので、ボランティア配食は続けてほしい事業です。ただし、友だちと遊ぶが目的で参加している子どももいるので、ボランティア配食の目的や心構えを教えていってほしい。	
		15	家庭・地域と連携しながら防犯・防災教育の推進や感染症対策の推進を図るため、メール配信やホームページを活用した情報発信をし、安心・安全な学校づくりに努めた。	A			◇地域と一緒にあって、家庭・学校と活動がなされ、身近に感じる人が多い。学校の行事に参加し、また地域に参加して下さることは、交流・絆を深めるためにはありがたいと思います。 ◇地域行事やボランティアなどを通して、子どもと地域がつながる機会が多く、学校が開かれている印象がある。保護者や地域が関わりやすい雰囲気づくりが進んでいる。 ◇困りごとのある子への支援を丁寧に進め、必要に応じて関係機関とも連携しているようで安心できる。連絡手段も整い、学校の情報が以前より伝わりやすくなった。 ◇登校しにくい子や個々に関わりの必要な子たちに個々に細やかに関わってくださっている事が分かった。 ◇地域にも積極的に交流を持っていただきありがとうございます。先生方も忙しい中や休日にも関わらず、神社の盆踊りや秋祭り、ボランティア等々、たくさん参加いただきありがとうございます。 ◇校長室よりの発信を細かく見られていなかったことを反省しています。先生方が忙しい中、子どもたちのためにいろいろ考え、児童たちからの思いを引き出して実行できるようにと、いろいろな面からのサポートをありがとうございます。 ◇先生方にはお手数をかけているが、お弁当を受け取られる方々は、子どもの同行に嬉しく感じておられるので、ボランティア配食は続けてほしい事業です。ただし、友だちと遊ぶが目的で参加している子どももいるので、ボランティア配食の目的や心構えを教えていってほしい。	

育ちと学びを支える連携2	保幼小中の連携	16	保幼小中のつながりを意識し、子どもの校種間交流や教員の出前授業等の具体的な連携に努めた。	A	A 90.8	A	○5年生の幼稚園交流や6年生の池清掃・畑活動・保育体験などを通して保幼小連携を進めており、児童の思いやりや責任感が育っている。今後は園との情報共有をより計画的に行い、活動のねらいを整理して年間を通した連携の流れを明確にすることで、より効果的な学びにつなげたい。 ○昨年度からの保幼小連携のおかげで、瀬田幼稚園出身の子どもを中心に、6年生と良好な関係を継続することができ、入学当初にスムーズに連携ができたように思います。他園の子どもたちも同じように…までは難しいと思いますが、5・5交流が少しでもあるといいなと感じました。 ○1学期には、出前授業として小学校教員が瀬田幼稚園の5月の季節イベントに金太郎役として参加し、園児と関わった。水泳学習でも、出前授業として瀬田幼稚園に行き、小学校の水泳学習で行うようなことを事前に園児とともに言い、楽しむことができた。2学期には、運動会前にリレーの指導を行った。また、小学校の運動会練習を見学に来たり、応援をしたりする中で、小学校生活への期待が膨らんだ。瀬田幼稚園・レイモンド瀬田こども園・レイモンド大津保育園と連携し、架け橋期カリキュラムを作成した。各保幼小で子どもへの願いや学習の場の工夫などを話し合うことで、それぞれの思いを共有し、カリキュラムを作成することができた。今年度は、カリキュラム作成、合同研修会など、園との様々な交流を通して、園児との関わりだけでなく、教員同士でのつながりも感じることもできた。しかし、園との交流は進んでいるものの、中学校との関わりは3学期に限定されてしまっていることが今後の課題である。 ○5・5交流が実施でき、運動会を年長の子どもたちに見に来てもらえてよかった。また、保育園・幼稚園の先生と連携し、一緒に研修会を行うことができた。 ○昼休みの5・5交流や、総合でのプール交流、今後予定しているクリスマス会やお正月遊びなど、子どもの校種間交流を継続して行っていた。また、学校園教育研究委員の公開授業を瀬田小で行い、研究会をした。保幼小の接続黄の教育課程の編成などに生かすための校種間の教員の交流は、もう少し必要だと感じる。	●今年度、1年生と幼稚園との交流はなかった。と、あると、2年生の生活科「おもちゃまつり」などでの縦割り交流がより活性化されるのではないかと思います。 ●幼稚園との関わりは今年度、とても密にできたように感じるが、今後、どの活動をどの程度継続していけるかは検討が必要である。教員が変わっても、必要な活動は引き継ぎ、持続可能な範囲で幼小連携を活性化させていきたい。また、中学校との連携については、連絡会や出前授業だけでなく、授業公開や合同研修などで積極的に声をかけ、児童が卒業後に円滑に中学校生活に慣れていけるように連携を進めていきたい。 ●小学校教員が、来年度入学する子どもたちの様子を見に行くなど、交流できる場を設定していきたい。 ●幼稚園児が、小学校の図工作品等を鑑賞し、交流する場を設けてもいい。 ●時数がタイトなことで余裕をもって5・5交流をできていないため、総合のカリキュラムを見直し、内容を精選して5・5交流の時数を増やすと子どもが交流に向けて準備をしやすくなると思う。保育園や幼稚園で子どもたちが経験していることをもっと知って、小学校の教育に生かしたい。
		17	保幼小・小中の校種の枠を超えた授業公開や合同研修会を実施した。	A			◇私は、5年生の幼稚園交流に感動しています。今後も継続を期待いたします。また、6年生の畑活動もどのような野菜ができるか楽しみです。 ◇幼小中の連携・交流は、私たち地域が見ていても、本当によくされていると思います。幼稚園と小学校の結びつきは、瀬田ならではの感心し、自慢できていると思います。ありがとうございます。 ◇幼稚園との交流が多く、子どもたちが年下に優しく関わる姿を見て温かい気持ちになる。地域から見ても、入学や進級が安心につながる取組だと感じる。 ◇行事見学や交流活動を通して、子どもたちが次の学校生活を具体的にイメージできているように思う。園と学校の先生同士も関わりがあり、支え合っている印象がある。 ◇保幼小中のつながりが継続され、幼稚園とは密になって来ていることがよく分かりました。 ◇様々な事業を見て、幼小の交流が良い効果になっていると感じる。A評価であるが、評価点（達成率）が他の項目より低いのは、交流を主に担っている先生の行動が他の先生に浸透していないのでは？と思う。	◆低学年による活動も計画してはどうでしょうか。また、6年生に関しては、中学校に訪問しての交流会も計画してはどうでしょうか。中学校の授業風景または部活動の体験など計画してみたら良い交流会・体験会に発展すると思われます。 ◆これからも幼小中のつながりと交流を大切にしてほしいです。 ◆今の交流が続くと、子どもたちの不安が減り、地域としても安心できる。学年によって偏りが出ないように、無理のない範囲で計画的に継続してほしい。 ◆小学校と園の連携に加え、中学校とのつながりも広がると、卒業後の見通しが持てよと思う。授業見学や体験など、段階的な交流が増えることを期待する。 ◆幼稚園を訪問したとき、お正月遊びですごく工夫されていて、楽しんでいる様子を見せていただきました。その上で、お正月遊びを交流の場に使っていただけたら、相方が楽しめるのでは？と思いました。 ◆全ての学年が幼稚園と交流する必要はないと思います。
		18	保幼小の接続期の教育課程の編成など校種間のカリキュラム研究を通して教育内容等についての交流に努めた。	B				

組織体制の充実1	生徒指導体制の充実	19	子どもが気軽に相談できる雰囲気づくりや毎月のアンケートを通して、いじめや生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導に努めた。	A	A 96.2 (A 96.4)	○学校全体で「いじめを許さない」風土を築き、アンケートや面談、連絡体制を通じて問題の早期発見と未然防止に努めた。 ○担任・教務・支援員・担当者が密に連携し、気になる事案についてはケース会議や関係機関との協働を行い、迅速かつ組織的な対応ができた。 ○生徒指導通信や委員会活動、もくもく掃除などを継続して行い、生活面の意識向上と学校全体のよりよい生活づくりに取り組むことができた。 ○本年度はミニケース会議をたくさん行った。必要に応じてSSWも同席で行い、過去の担任からの情報を共有した。ミニケース会議の方法は夏季休業中に受けた研修「短時間でできるケース会議の方法」を用いている。一部の発言力のある教師の意見だけがクローズアップされることがなく短時間で進める方法で、その有用性を大きく感じている。各担任がつかんでいること、家族の状況やそれまでに保護者に話したこと（気になること・心理・発達・学力・家族）をそれぞれA4用紙に記入する。アセスメントやプランニングはその場ではしない方法である。現担任を中心に支援者はその記入用紙をくり返し見返して、支援の参考にすることができた。そのミニケース会議のおかげで、大きく行き滞りの様子を見せていた児童も全欠に陥らずに登校できる状態まで回復した児童が複数人いて、ミニケース会議の有用性を実感している。 ○校内ウイングおひさまルームの紹介リーフレットを作成し、9月1日にTetoru配信した。そのことによって、保護者の方から「Tetoru配信見ただけですけど、相談にのってください」という申し出があったり、本人や保護者と教育相談をする中で、☆1～☆6で表したレベルをもとに、「今現在どのくらい登校できるか」や目標を決めるのに大いに役立つ。また、一旦登校し始めてからのゆれ戻しも少ない。保護者の声かけも的を射ているように感じる。また、職員にも校内ウイングおひさまルームのことをお知らせできたようで、おひさまルームの存在を必要なものとしてとらえたり、クラスの児童がおひさまルームに通っている場合は、学級の児童に「〇〇さんは学校内のおひさまルームで、学習を頑張っているんだよ」と説明してくれていた。リーフレットが発行されたことで、「現在おひさまルームに登校している児童について、紹介しやすくなった」という声を多く聞いたので、本当に良かったと思う。また、管理職の先生の指導で、おひさまの児童の学習のサポートを担当が進んでくれるようになった。メタモジの作成や週予定の配布、プリント準備、また本人への短い手紙など多岐にわたる。個に応じた支援である。 ○おひさまに登校している児童の多くは、定期的に保護者、本人、担任、教育相談で懇談を行っている。現状を共通認識したり、頑張っていることをその中で認めていくことで、親子ともども、エンパワーメントされる機会になっていると感じる。 ○毎日おひさまの児童については、担任や必要な児童は養護教諭と一緒に、「その日の学習や様子」を共有して、丁寧に学習予定をたてている。 ○こころの健康観察を実施し、児童の心の状態を把握し、共有できるようにした。 ○毎月のアンケートを通して学校全体の様子を把握し、必要に応じて個別対応を行った。 ◇登下校の際のあいさつは、子どもからするのはごく僅かです。こちらから挨拶しても答えてくれるのも半数以下まだまだです。交差点での先生との挨拶はしっかりできています。学校においても同じようだとおもっています。 ◇まだまだ、地域との対話ができていないように感じられます。 ◇あいさつ運動や瀬田小の約束など、地域と家庭と学校が関わって、いつも一緒にされていることを強く感じます。 ◇登下校の様子を見る限り、子どもたちは落ち着いており、大きないじめの雰囲気は感じない。困ったときに学校が早めに気づき、対応してくれている安心感がある。 ◇あいさつ運動や学校の約束など、家庭・地域・学校が同じ方向を向こうとしている点は心強い。日頃から見守りや声かけが続いていることが伝わってくる。 ◇あいさつ、瀬田小のくらしについては、地域の人たちとの関わりがあり、様子についてもよく分かるようにいろいろな場での発信があったように思いますが、潜在的な問題が見えてきていないという事実もあったと思います。例えば、子どもたちの小さないじめ、不登校になる子どもの原因がこんな風に多様化しています…など、差し支えない範囲で発信していただけたら、地域で協力できること、地域から発信できることなど、共有できればと思っています。	●事案が発生したときには、担任と連携して教務部が組織的に対応できた。今後、学年部で事案について共有し、どう解決していくかを検討する流れを作りたい。 ●定期的にいじめに係る校内研修を実施したい。いじめ報告書の作成、SNSトラブル、特別支援系の保護者の対応について等。 ●「せたっこ心を育てる三つの約束」について、目標が三つに限られているので効果的に指導できた。教師が「心をこめた挨拶・もくもく掃除・目と耳と心で聴く」を率先して取り組んでいきたい。 ●朝の放送→クラスでの目標設定という流れができていますので、どのクラスも取り組みやすかった。 ●事案の共有や連携の方法、役割分担などをどのようにしていくとより効果的なかを協議していくことが必要。 ●いじめアンケートが先生たちの負担になっているので、負担の少ない方法での実施の仕方を考えたい。 ●長く休んでしまっていたのちに再登校を始めた児童が、まだ登校するのが精一杯で、学習はほとんどできない時期にどう過ごすかが課題。現在は教務の教師に個人的に交渉し、一緒に運動してもらったり、おしゃべりにつきあってもらったり、児童が望む場合は保健室と連携したりしている。学習にのれない児童が長時間学校で過ごしたいときの方法については、決めごとがまだない。 ●こころの健康観察の実施が徹底できるように、その目的や効果について職員間で共有できるように努める。 ◆事案解決に向けてのルール作り素晴らしいですね。もっと進化を続けてください。 ◆アンケートも必要ですが、もっと「簡単に・気楽に」相談などできる目安箱・相談ポストなど設置したら、業務は若干なりとも軽減できるのでは？ ◆家庭的なルームを設け、そこでのコミュニケーションを行い、学校に行っても家庭的な部屋とお話ができれば早く学校になじんでくれるかもしれません。 ◆心の問題やトラブルは、大変取組が難しく、複雑だと思います。大規模な学校で本当に大変でしょうけれど、いろいろな力を借りて対応していただきたく思います。 ◆子どもが気軽に相談できる場所や仕組みが見える形で続けると、地域としてもより安心できる。学校の取組を分かりやすく伝えてもらえると、協力もしやすくなる。 ◆あいさつやルールづくりを継続しつつ、地域ともゆるやかに対話できる機会が増えることよい。学校・家庭・地域で子どもを支える輪が広がることが期待している。 ◆いじめ、不登校など、子どもたちの繊細な部分については、学校外へ話すことは難しいと思います。今の子どもたちは「こんなことに悩めますよ」「こんなトラブルからいじめへとつながっています」など、ざっくりとしたところで今の現状を教えてください。複雑になる前にできることを教えていただきたいと思います。 ◆家庭環境によって、かなり変化があるので、まずは制服や身だしなみのチェックを強化できればよいと思う。
	20	問題行動や不登校などの課題に対して、組織的な指導・支援ができた。	A				
	21	あいさつ、瀬田小のくらし（やくそく）、いじめ対応など、家庭・地域・関係機関との連携による指導に努めた。	A				

組織体制の充実2	特別支援教育の充実	22	校内委員会を組織し、支援を要する児童の支援計画及び指導計画を作成・活用し、支援に努めた。	A	A 96.2	A	○特別支援教育に関する研修を定期的に行うことで、特別支援教育の充実を図ることができた。特に、支援を要する児童の支援計画及び指導計画の作成に関する研修がよかった。 ○特別支援教育コーディネーターを核に、日常的に情報を共有することで、職員が連携し、組織的かつ計画的な特別支援教育を進めることができた。 ○校内委員会にいたるまでに、学年の中で「支援を要する児童の把握」を密にしていける機会を持つようにしていける必要があると感じている。そのためには、学年の子どもたちの特別支援にかかわる取り組みや体制について組織的にP-D-C-Aができるよう本校の状況に合わせた組織（特別支援部会）を活性化していけるとよいと思う。他校の取り組みの良い部分も参考にし、本校で取り組みやすい形を個人ではなく、組織で考えていけるとよいと思う。 ○本校での巡回相談の進め方は難しい。巡回も必要であるが、講師を招いて、特別支援教育についての基本の「き」にかかわる研修や本校に必要な特別支援教育についての研修をを年に2～3回悉皆で計画的に行うことも必要と感じている。 ○個別支援計画及び指導計画の作成については、ミニ研修などを通して共有することで、具体的な支援につながった。 ○本年度の夏の就学相談会に向けて、前年度から計画的に支援学級見学、体験を行い、保護者とも十分に相談を行って校内委員会にかけることができた。また、通常級で入学した、支援を大きく必要とする新1年生についても、入学前から在籍園やこども発達相談センターと連携し、入学してすぐから必要な支援を担任と特別支援CDを中心に検討し早期に学級でできる支援を行い、就学指導が必要かを校内委員会で複数回はかり、夏の就学相談会に臨んだ。 ○通級指導教室が新設され、校内の特別支援教育が拡大された。 ○教育相談をする児童や行き渋りでおひさまルームに登校してくる児童の多くに、特別な支援を必要とする児童がいる。時に通級指導教室担当者がその児童を観察し十分にアセスメントを行い、支援方法を検討し、行った。	●年間計画に校内委員会の日程や、個別の指導計画の作成、評価についての面談期間などについての日程が年度初めに示されているとよいと思った。後期が10月から開始されるよう改善していく必要があると思う。（そのためには、夏休み～9月前半に面談の必要があると思う） ●次年度、定期的な部会の設定により、切れ目のない支援・教職員の特別支援教育に対する理解を進めていきたい。 ●通級指導教室が新設されたことで、必要な校内体制を1年通じて探ってきた。来年度に向けて定例特別支援教育委員会を立ち上げることとなり、現在年間の委員会計画を精査中である。
		23	特別支援教育コーディネーターを核に、各担当者が連携して組織的・計画的な特別支援教育の体制作りに努めた。	A			◇研修を通じ支援教育の充実を図る、そして瀬田小独自の支援計画・指導計画を作り上げてください。 ◇支援教育コーディネーターを核にして、情報を共有→職員の連携→組織的・計画的な支援を進める活動、これをルール化して進めてほしいです。 ◇おひさまルーム（初めて知りました）に登校してくる子どもたちとの交流は素晴らしいと思います。家庭的な部屋にコーディネートして、また先生方とのコミュニケーションを大切に指導してください。いろいろな面でお互いに成長が見られると思われま。 ◇私たちには分からない事柄ですが、頑張っておられることがよくわかるので、高く評価されると思います。 ◇学校の詳しい取組は分からないが、支援が必要な子にも目を向け、安心して過ごせるよう整えている印象がある。困ったときに頼れる仕組みがあるのは心強い。 ◇通級や相談体制が広がっていると聞き、子どもに合った学び方を選べる学校になってきたと感じる。支援が「特別」ではなく自然にある雰囲気づくりが進んでいる。 ◇支援の必要な児童に対しても、子子大切に思い支援してくださっていることがよくわかりました。 ◇通級指導教室という、すごくよい環境ができて嬉しいです。ありがとうございます。	
		24	巡回相談等を活用し、関係機関と連携した相談体制の充実に努めた。	B	(A 96.4)		◆定例特別支援教育委員会の活発な活動を期待しています。瀬田小全ての子どもたちにとって、よりよい活動計画を立ててほしいです。 ◆どんな相談先があるのか地域には見えにくいので、「相談できる窓口」や支援の流れが分かる発信があると安心できる。困り感の早期発見にもつながると思う。 ◆学校だけで抱え込まず、家庭や関係機関とつながって支える姿勢を今後も続けてほしい。子ども一人ひとりの良さが生きる学校づくりに期待している。 ◆個々により、支援が複雑で難しいとは思いますが、人との関わりができてやすい児童や人との関わりが必要で手が不足している場合は、主任児童委員など、手が貸せる事があれば相談してください。	